



頭の中には髄液という水が満ちていて、脳を守っています。髄液は常につくられては吸収され、つくられては吸収されることを繰り返して、頭から背骨の中を循環し、脳や脊髄をまもっています。

この髄液の循環が滞ってしまうとどうなるでしょう。余分な髄液がたまってしまいます。この余分な髄液がたまった状態を水頭症といいます。

水頭症にはいくつかの種類がありますが、今日は高齢者に時々みられ、かつ「もう年だから」と単なる老化と間違われやすい「正常圧水頭症」についてのお話です。では正常圧水頭症の症状を3つ・・・

- ①認知症
- ②歩行障害
- ③尿失禁

これらが正常圧水頭症の3徴です。どれも、「もう年だから」と納得しても不思議ではない症状です。でも「正常圧水頭症」は手術で治療できる病気です。

水頭症の診断にはまず画像検査が必要です。脳のCTやMRIでわかることが多いです。髄液は脈絡叢というところで作られますが、脈絡叢は脳の中にある小部屋の中にあります。この小部屋のことを脳室といいます。髄液が余分にたまると、この脳室が大きく拡大してきます。CTやMRIを行ってみると脳室が大きく拡大していることがわかります。でも、脳の萎縮によっても脳室が大きく拡大していることがあります。この鑑別は難しく脳の専門医に診察してもらうのが良いでしょう。

CTやMRIで疑わしい場合にはタップテストといって、腰から髄液を少し抜きます。ちょっと怖いかもしれませんが、頑張りましょう。髄液を抜くと正常圧水頭症であった場合、明らかに歩行の改善が見られます。

治療は手術になります。シャント手術といいます。脳室からおなかの中に髄液が流れるチューブと流れる量をコントロールするシステムを皮膚の下に埋め込みます。これを脳室-腹腔シャント術といいます。または腰からおなかの中にチューブとシステムを留置することもあります。

シャントシステムは皮膚の下に留置しますので、お風呂に入ることなどはもちろん、スポーツをするにも問題ありません。

では最後に・・・

- ①認知症
- ②歩行障害
- ③尿失禁

どれも、「もう年だから」と納得しても不思議ではない症状です。でも、もし「正常圧水頭症」であれば手術で治療できる病気です。

脳の専門医に相談してみたいはいかがでしょうか